

気候変動に関する政府間パネル(IPCC)に係る最近の動向

資料2-3

- IPCC第42回総会(2015年10月、クロアチア)にて、第6次評価報告書(AR6)を率いる新体制が発足。
- 第43回総会(2016年4月、ケニア)では、特別報告書等に関する議論が行われる見込み。

【新体制(IPCC議長団)】

※IPCCのHP等の公開資料をもとに環境エネルギー課で作成(肩書き等は2015年10月時点)

議長 Hoesung Lee氏



韓国、高麗大学大学院教授、
専門:気候変動、エネルギー、持続可能開発に関する経済学、
AR5副議長

副議長(先進国) Ko Barrett氏



アメリカ、大気海洋庁(NOAA)
長官副補佐官、専門:気候変動政策・研究管理、米国代表団の一員としてIPCCに関与

副議長(途上国) Thelma Krug氏



ブラジル、国立宇宙研究所主任研究官・国際室長、専門:統計科学・リモートセンシング・気象学、AR5/TFI共同議長

副議長(途上国) Youba Sokoma氏



マリ、サウスセンター特別顧問(持続可能開発)、専門:環境・エネルギー・持続可能開発、AR5/WG3共同議長

WG1(自然科学的根拠)

Valérie Masson-Delmotte氏



フランス、気候環境科学研究所主任研究官、専門:古気候学、AR5/WG1で統括執筆責任者(CLA)

WG2(影響・適応・脆弱性)

Hans-Otto Pörtner氏



ドイツ、アルフレット・ウェゲナー研究所/ブレーメン大学教授、専門:海洋生態学、AR5/WG2でCLA

WG3(気候変動の緩和)

Jim Skea氏



イギリス、インペリアル・カレッジ・ロンドン環境政策センター顧問、専門:環境エネルギー政策、AR5/WG3副議長

インベントリ・タスクフォース(TFI)

田辺清人氏



日本、地球環境戦略研究機関(IGES)上席研究員、専門:温室効果ガスインベントリ、TFI技術支援ユニット部長

Panmao Zhai氏



中国、気象科学院教授
専門:気候変動監視・診断等、AR5/WG1で主執筆者(LA)

Debra Roberts氏



南アフリカ、エテクウィニ市(ダーバン)環境計画・気候対策局長、専門:都市生物地理学、AR5/WG2でLA

Priyadarshi R. Shukla氏



インド、インド経営大学院教授、専門:気候変動・開発政策、AR5/WG3でLA

Eduardo Calvo氏



ペルー、サン・マルコス大学教授/外務省環境政策顧問、専門:環境科学、AR5/WG2副議長

7名(インドネシア、モロッコ、カナダ、ノルウェー、パキスタン、アルゼンチン、アルジェリア)

8名(スイス、オーストラリア、ベネズエラ、マレーシア、メキシコ、ロシア、タンザニア、サウジアラビア)

7名(モルジブ、イタリア、エチオピア、スーダン、キューバ、ニュージーランド、ハンガリー)

メンバー12名(コモロ、インドネシア、トルコ、カナダ、アルゼンチン、ベニン、タイ、フィンランド、チリ、オーストラリア、アメリカ、カザフスタン)
※IPCC議長団メンバーではない

共同議長(先進国)

共同議長(途上国)

副議長

(参考) 気候変動に関する政府間パネル(IPCC)の概要

設立: 1988年に世界気象機関(WMO)と国連環境計画(UNEP)により設立。

目的: 人為起源による気候変化、影響、適応及び緩和方策に関し、科学的、技術的、社会経済学的な見地から包括的な評価(アセスメント)を実施。**2007年、米国前副大統領のアル・ゴアとともにノーベル平和賞を受賞。**

科学の進歩

国連気候変動
枠組条約
(UNFCCC)等の
温暖化交渉へ
大きなインパクト

○1990年：第1次評価報告書

“人為起源の温室効果ガス(GHG)は気候変化を生じさせる**恐れがある**”

○1995年：第2次評価報告書

“地球の気候システムに対する検出可能な人為的影響が**示唆される**”

○2001年：第3次評価報告書

“温暖化はGHG濃度の増加によるものであった**可能性が高い**”

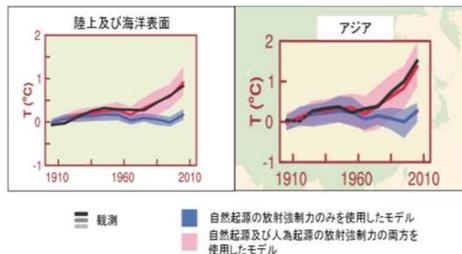
○2007年11月：第4次評価報告書(AR4)

“温暖化の原因が人為起源のGHGの増加による**可能性が非常に高い**(90%以上の信頼性)”

○2013~4年：第5次評価報告書(AR5)

“温暖化の原因が人為起源のGHGの増加による**可能性が極めて高い**(95%以上の信頼性)”

○遅くとも2021年まで：第6次評価報告書(AR6)



文部科学省は、温暖化の現状、将来の温暖化予測の評価を行う第1作業部会(自然科学的根拠)を気象庁とともに担当。

衛星や船舶等による観測や、地球シミュレータを活用した**気候変動の将来予測**等に関する研究を広く支援しており、これらの成果はIPCCが評価の対象としている科学的知見の創出に多大な貢献している。AR4やAR5にはこれらの成果による**多くの研究論文が引用**されており、引き続き、AR6に向けて積極的な貢献が期待されている。